

様々な職種の講師を招き

10才の自分が描く未来とは

児童と対話、仕事観を伝える

向東小4年

市立向東小学校(関原喜久代校長)では異なる職種の10名を招いて未来について考える授業を8日、9日に行い、2分の1成人式を2月にひかえた4年生63名が参加した。

8日は槍投げで国体へ出場した池田康雄さん、パティシエの平岡里英さん、ピアノ講師の田中直美さんの3



名が訪れ、児童は3グループに分かれそれぞれの話を聞き、質問をした。写真は自己紹介の様子。左から池田さん、平岡さん、田中さん。

池田さんは水泳の萩野公介選手と瀬戸大也選手を例に、「瀬戸選手は会社勤めながら大会に出ることで選手として生活しています。対して萩野選手は企業にスポンサーについてもらうことでプロとして活躍しています。同じ競技の選手でも生きかたが違うんです。」とアスリートの多様性について話し、家でも外でも24時間選手のつもりで日々過ごしていることを伝えた。

平岡さんはホテルでパティシエとしてウエディングケーキやコーズ料理のデザートをつくらせていたことを話し、「自分のお店を立ち上げてからはお客様と触れ合うことができますようにになりました。誕生日ケーキを頼まれた方は特にそうですが、お客様が喜んでくれることがやがていず。自分でお店を出すとしても、ケーキを作るのに

も算数は必要なのでしっかりと勉強してください。」と伝え、パティシエを目指すきっかけは洋梨のタルトとの出会いがあったから。素晴らしい出会いを経験してくださいと伝え

た。田中さんは音楽大学で合唱、ヴァイオリン、琴など様々なことを学んだことを話し、尾道でも他の土地でも音楽の勉強はどこでもできると話した。そして「仕事では海外に行くこと海外の人と話すこともあります。海外のアーティストは宮沢賢治の出身地はどこ?とか待たはいつまでいたの?など日本のことを聞きながら。コミュニケーションのこともや英語をしっかりと勉強しましょう。」と話し、プロになるにはたくさん練習して、他

の人や楽譜に感謝することが大切と伝えた。9日には美容師や看護師といった7名が来校し、講義した。

今回の授業でゲスト講師を務めた10名は学校側からの提案を受け、向東公民館館長で地域教育支援推進委員の花咲法了さんが招致した。花咲さんは「子

ども達には国体に出場する方や日展作家が向東からも輩出されていることを知り、地域に誇りを持って欲しいで

す。そして様々な職業と出会い自分の可能性について考えても欲しい」と語った。
【山口翔平】